

こうほう ショッキング

Vol.82

Kōhō shocking



たぐち ふみあき
田口 史明さん

●プロフィール

35歳。豊玉町仁位出身、在住。3人兄弟の長男として生まれる。豊玉中学校を卒業後、長崎鎮西学院へ進学し駅伝部で汗を流した。そののち京都の自動車専門学校で整備士の資格を取得、20歳の時福岡ダイハツに就職。平成19年帰郷、家業の自動車会社を継ぐ。昨年7月に開催された長崎県商工会青年部連合会「若い経営者の主張大会」で準優勝。株式会社田口自動車代表取締役。妻と3人の子どもの5人暮らし。

○高校では駅伝部だったそうですね。

走り始めたのは小学生の時。駅伝も経験し、高校でも走ることを選んで長崎鎮西に。高校ではもつともつと走って、走り尽くしてしまっただけで(笑)。今は走ることに釣りが好きになりました。特にクワ釣り。寒い時期しか楽しめませんが、暖かいと釣れなかつたり、寒い中で釣るのも大変だったり。釣れるか釣れないかの駆け引きが、釣りの面白さですね。

○子どものころから釣りが好きだったのですか？

いやあ、僕は全く。福岡にいる頃までは、釣りには全く興味がなかつたです。エサにも触りたくなかつたほど。でも対馬に帰ってきて、友達に誘われて釣りに行ったのがきっかけで、すっかりはまりました。今ではあのエサのにおいがたまらなく良いんです(笑)。

○福岡でも自動車会社に勤務されていましたが、対馬とは違いはありますか？

福岡の会社では、整備士も厳しく接客を教育されました。社内接客コンテストが開催され、私も参加しました。異音がする

という訴えのお客様の車の入庫受付から、その異音のする場所や様子を聞き出すというロールプレイングは、難しかったですね。ブレーキパッドの減りなんかも、まずその部品を説明することから始まって、問題をお伝えするところまで、ずいぶん練習しました。

対馬で仕事するということは、やっぱり地元に着用してからです。付き合いが深いので、昔からの顔なじみのお客様ばかりですし、信頼関係があり「悪いところは換えといて」と言っただけです。ただ、その分責任も大きいです。

○家業の自動車会社に興味は？

実は、全く興味がなかつたんです。高校では特に走ることに全てを捧げていましたし、でも、父に家業を継ぐように言われて、その時の僕には選ぶ道は他にありませんでした。自分に向いた仕事を選んでいく人が、うらやましかつたです。ただ、今思うと、この仕事は僕の性格には向いていたと思います。

○受け継いだ会社を発展させていらつしやるご様子ですね。

いいえ、まだまだ。昨年の「若い経営者の主張大会」で発表し

ましたが、島外にいる友達に対馬に帰って来いよと声をかけても、仕事がないのでは帰つてくれません。従業員の雇用拡大のために、自分の職場を拡大したい。それが僕の夢です。

○商工会青年部の活動にも参加していらつしやいますか？

豊玉町のイルミネーションや産業祭など、子どもたちが楽しく過ごせるようなイベントを開催しています。人口も減り、子どもも少なくなつたのですが、商工会の活動を通じて「対馬が良いな」と思ってくれたらと願っています。僕の子ども達にも対馬に残つてほしいとは思いません。でも、自分で自分の道を見つけてほしいです。

○今年したいことは？

今年は、家族で旅行に行きたいです。仕事ばかりでなく、家族との時間を作りたいと思っています。ここで宣言したら、実現させなきゃですからね(笑)。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は豊玉町仁位にお住まいの阿比留健太さんです。お楽しみに。